

【様式1】

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	富山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	富山市立五福小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	2	2	2	0	13	19
児童数	58	68	81	51	66	79	0	403	

研究の概要

1. 研究主題

基礎学力を身に付け、進んで課題を追究する児童の育成 - 日々の授業の改善 -

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> 1年～6年・国語、算数 学習の基礎・基本の確実な定着を図るためには、国語科において読んだり、書いたりする力や算数科において計算したり考えたりする力が、基本となると考えるため 1年～6年・基礎的な学習の時間（国語、算数） 読み・書き・計算といった基礎学力の高さが学習能力の高さにつながり、生きる力を含む学力全体の可能性を決定すると考えるため
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 学校ぐるみで学力の基礎を鍛える 研究の見通し（仮説） <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが、反復学習で「できる」「わかる」ようになることによって、自信が付き、学習意欲を高めることができる。 説明を少なくし、テンポよく、変化のある反復学習を徹底的にほめ励ましそして認めながら行うことによって、基礎学力の確かな定着を図ることができる。 一人一人の子供たちが、自分のよさを発揮できる教材や学習過程を工夫することにより、意欲的で確かな追究を積み重ねることができる。 かかわり合う場を工夫することによって、子供たちが違いのよさを認め合い、主体的・創造的に追究し、実践していくことができる。 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力定着のための指導法・教材・評価の研究 きめ細かな指導（少人数指導）の研究 指導法改善のために、教材開発をしたり、全員が授業研究を行ったりする。
--------	---

平成15年度	テーマ 学力の基礎を鍛え、「できる」「分かる」授業をつくる 研究の見通し <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子供たちが、自分のよさを発揮できる教材や学習過程を工夫することにより、意欲的で確かな追究を積み重ねることができる。 説明を少なくし、テンポよく、変化のある反復学習を徹底的にほめ励ましそして認めながら行うことによって、基礎学力の確かな定着を図ることができる。 一人一人の子供たちが、自分のよさを発揮できる教材や学習過程を工夫することにより、意欲的で確かな追究を積み重ねることができる。 かかわり合う場を工夫することによって、子供たちが違いのよさを認め合い、主体的・創造的に追究し、実践していくことができる。 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> 「ひとり読み学習を中心にした国語の指導法」の研究
--------	--

【様式 1】

・「習熟を徹底し教科書で教える算数の指導法」の研究
 指導法改善のために、学習会をしたり模擬授業を生かして授業研究を行ったりする。

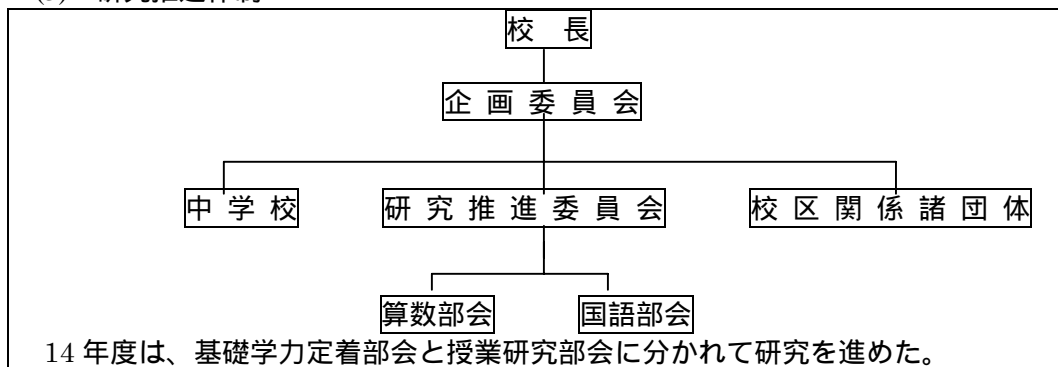
平成 16 年度

テーマ 学力の基礎を鍛え、進んで課題を追究する
 研究の見通し

- 一人一人の子供たちが、自分のよさを発揮できる教材や学習過程を工夫することにより、意欲的で確かな追究を積み重ねることができる。
- 説明を少なくし、テンポよく、変化のある反復学習を徹底的にほめ励ましそして認めながら行うことによって、基礎学力の確かな定着を図ることができる。
- 一人一人の子供たちが、自分のよさを発揮できる教材や学習過程を工夫することにより、意欲的で確かな追究を積み重ねることができる。
- かかわり合う場を工夫することによって、子供たちが違いのよさを認め合い、主体的・創造的に追究し、実践していくことができる。

研究の内容・方法
 「追究力を育てる指導法」の研究
 学習会をするとともに、授業研究を行う。

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

基礎学力の定着が顕著に見られた。
 昨年度の校内における漢字・計算大会の結果と、今年度の全県下で行われたチャレンジテスト（漢字）の結果からのデータとを比較すると、全校で90点以上を採った児童の割合が90%、平均点も3.8点の上昇が見られた。漢字の定着が顕著であることがわかる。
 これは、週時程に位置付けられた基礎的な学習の時間に漢字学習の時間を設定し、年間継続して反復練習を行った成果と考えられる。第2回目は、しっかり反復練習の後、2月上旬に行い全員合格を目指す。
 チャレンジテスト（漢字）第1回目の結果

点	年級	1年	2	3	4	5	6	全校					
		11級	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	H15
90～100点	90%	90	94	100	100	90	86	74	83	86	94	90%	54.5%
80～89点	10%	9	5	0	0	6	6	13	8	6	0	6%	35%
80点未満	0%	1	1	0	0	4	8	13	9	8	6	4%	10.5%
平均点	95点	96	95	99	99	96	94	90	93	93	95	95点	91.2点

<チャレンジテスト(計算)は、2月に実施予定>

学力の向上が見られた。(国語・算数)
 県小学校教育研究会作成の「学期のまとめ」、業者ワークテストにおける国語の読み・言語事項、算数の表現処理、考える力、知識・理解など観点から平均点を出し、1・2学期を比較すると、国語は全校で1.6点、算数で0.5点の上昇が見られた。これは、「できる」「分かる」授業の改善を目指し、国語と算数において基本的な授業の型を決めて実践を重ねることが、確かな学力の定着に効果があることを示した結果といえる。

【様式1】

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		平均点	
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
国語	90点	86.5	92	91.7	81.1	84.5	86	89.5	87.3	83.9	87.5	90.4	86.2	87.8
算数	93点	92.5	91	88.9	90.1	88	84	84	80.4	80.7	82.5	89.8	86.8	87.3

学習に対する、児童の意識調査から
 全校児童にアンケートを採り、国語・算数に対する児童の意識調査を行った。
 国語、算数とも普通から好きな方であると答えた児童が全校で9割近くおり、「どちらかと言えば嫌い」・「嫌い」と答えた児童が全校で1割という結果であった。国語、算数に対する児童の前向きな姿勢がうかがえる。これは、国語において要約指導、物語文指導、説明文指導を型を決めて指導を重ねたこと、算数において「わかる」より「できる」を先に指導し反復練習に時間をかけて指導を徹底したことにより、児童が自分に自信をもち、学習に意欲的になり始めたからではないかと考える。

選択肢	1年		2年		3年		4年		5年		6年		全校	
	普通～好き	嫌い	普通～好き	嫌い	普通～好き	嫌い	普通～好き	嫌い	普通～好き	嫌い	普通～好き	嫌い	普通～好き	嫌い
国語	87%	13	95	5	93	7	88	12	87	13	83	17	89	11
算数	85%	15	96	4	93	7	96	4	84	16	89	11	91	9

2. 今後の課題

- ・ 1時間の授業の中で学び方を学び、「できる」「分かる」喜びや達成感を味わうことができるような教科指導（国語・算数）の在り方を引き続き研究し、日々の授業の改善に努める。
- ・ 教科との関連を考慮した総合的な学習の時間の年間指導計画を作成し、追究力を育てる指導法の研究を進める。

学力等把握のための学校としての取組

- ・ 学力の定着の度合いを評価し、指導に生かすため次のような調査を行っている。
 - ・ 学力調査（3学年以上）……国語、算数あるいは国語、社会、算数、理科（年1回 4月）
 - ・ 小学校教育課程研究会作成 学期のまとめ（全学年）……国語、算数あるいは国語、社会、算数、理科（各学期末）
 - ・ 業者ワーク……国語、算数あるいは国語、社会、算数、理科（各単元終了後）
 - ・ チャレンジテスト……漢字、計算（年1回 1・2月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 中間報告会開催
 - 日時 平成15年11月28日（金）
 - 場所 富山市立五福小学校
 - 対象 教師
 - テーマ 基礎学力を身に付け、課題を進んで追究する児童の育成
 - 基礎学力を鍛え、「できる」「分かる」授業をつくる -
- ・ 中間報告会の資料内容については、HP作成中
- ・ 研究紀要作成中

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
13～18学級 19～24学級
25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
生活 音楽 図画工作 家庭
体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無